平成 16 年度鳥取市政懇話会「文化観光部会」 議事録

日時：平成 17 年 3 月 16 日（水）
午後 3 時～5 時
場所：鳥取市福祉文化会館 3 階第 1 会議室

○出席者
【委　員】池原委員、岡垣委員、沖委員、下田委員、須崎委員、福本委員、細田委員、山本委員
※〈欠席委員：植木委員、亀本委員、森田委員、森山委員〉
【鳥取市】中村文化芸術推進課長、木村観光コンベンション推進課長、井上スタッフ

○協議内容

○委員　皆さんに鳥取の先達、先人の資料が送られていると思います。どこの観光地でも、その土地の偉人を観光素材として活用しています。今こそ、そういう偉人の「物語」を観光に活かしていく地域づくりをしたらどうかと思っています。今日は私も意見を言うために、井上スタッフに進行をお願いしたいと思います。

○井上スタッフ　わかりました。

ではまず、私が作成した資料の説明から。資料作成の素材は図書館から借りたものですが、地域の先達、偉人を紹介する資料というのはけっこうたくさんあります。しかしながら、それが鳥取の知名度向上につながっているかというとそうでもない。とりあえず、「鳥取の偉人」を委員の皆様に共有していただくためにリストを作成しました。このリストから、またリストに限らず、こういう人を積極的に紹介したいな、という人を、皆様からお話しいただければと思います。

○委員　佐治とかかわりがある方としては田中寒楼さん。河原の方から山越えして迷って佐治に降りてきたところで「摩訶不思議なところに降りてきた」ということで「摩訶」という碑が建っています。私も寒楼さんの軸を一本持っていますので身近な気がします。

佐治谷話の語り部の上田禮之さんがでていますが、「文化」村長さんだったと思っています。有名なのは荒木又右衛門とか山中鹿介とか。

最後の方に彗星をたくさん見つけた本田実さんが出ています。この方も佐治と大いにかかわりがあります。八東の小学校の空き教室にこの方の資料を展示しようということで、天文台も協力しています。

○委員　私は吉田璋也を推したいです。この人はまさに全国区で、地元の方が冷ややかという感じもします。民芸プロデューサーとして、復興したのではなく始めた人なんです。因幡地域にあったいろんなものを発掘して民芸として育て上げました。彼の活動によって知名人が鳥取にたくさん来た。志賀直哉、河井寛次郎、山下清。地域の民芸を育て、採算ルートに乗せたという意味では全国で吉田璋也が初めてであり、みんなこれを真似た。ただ、作曲家や小説家と違ってアピールできない弱さがあります。これだけの仕事をしながら鳥取に残って仕事をしていたということが重要です。同様な人として植田正治。その心意気が大事だと思います。

もうひとり、児嶋幸吉。日清戦争の前後、台湾や大連やボルネオで貿易をして、企業家にたいへんな夢、ロマン、勇気を与えた人。地元に帰ってもいろんな企業を作った。実業家、冒険家として尊敬している。涌島義博の書いた伝記がある。戦後遅ればせながら鳥取市の名誉市民に。

○委員　全国から見たときに鳥取を表現するかと考えたら、岡野貞一。大山や砂丘は有名だけど、

もっと明確なイメージを作るために「ふるさと」という音楽を活用したらどうかと思います。

砂丘も観光資源として重要ですが、そこに文学の要素を加えたら。与謝野晶子の碑とかを活用して、文学の道という見せ方もあると思います。

田中寒楼さんの孫、曾孫と知り合いなんですが、家族にはあまり歓迎されていない感じです。しかしながら、非常に心酔者が多い。作品を持っていらっしゃる方もたくさんあります。まだ記憶の新しいうちに、活用できないかと思います。

○委員　作曲家の方々はふるさと音楽祭とかわらべ館で展開していくことができると思います。

私も民芸協会の会員で、吉田璋也の生誕何周年とかで美術館で企画をしたこともありますが、民芸というのも時代の流れがあり、流行りすたりというわけではないが、注目されたりされなかったりします。

順番に言えば、これまで尾崎放哉をまちづくりに活かしたらと提言してきましたが、県が乗り気になっており、来年も紹介の事業をするということです。小学校の俳句教室もあるようです。

尾崎翠さんも、映画祭、文学シンポジウム、岩美町の文学資料室など、紹介されるようになってきました。

有名どころでは亀井茲矩さんとかありますが、たとえば、地域ごとの区分けで考えて、鳥取市は尾崎放哉さん、浜村温泉を田中古代子さん、青谷はようこそようこその源左さん、気高を山中鹿介さん、河原を田中寒楼さんと八上姫、佐治は本田実さんや佐治谷話、国府町が八百谷冷泉さんと大伴家持さん、福部は砂丘に関する文学、用瀬は流し雛。この地にはこういう人がいる、ということでアピールしてはどうかと思います。

その中で、たとえば尾崎放哉さんの切手を5年以内に出すとか。自由律の俳句は子供にも受けがよく、教育にも活用しやすいと思います。

○委員　鳥取からこれだけの人が出ているのなら「人」を観光につなげなければいけない、特に全国的に名の知られた方を活用するべきだと思います。もう一つ考えるべきことは、「五感」に訴える方が、人は素直に心惹かれると思います。言葉で説明するよりは、歌や俳句や写真で感じてもらう方が理解してもらいやすいと感じました。

そういう意味で、岡野貞一さん、吉田璋也さん、尾崎放哉さん、伊谷賢蔵さん、全国で有名な人というと、こういう人になると思います。

また、歌を活用する場合、川の風景といっしょに使ったらどうかと思います。美しい景観を歌とともに用いて、人、史跡、文化芸術施設、イベント、食文化、最後は温泉に、というルート設定もありうるのでは。そういうルートを作る場合には、女性や若者に興味を持たれる時代に即したネーミングが大事だと思います。だから、誰というよりは、なるべく多くの人を活用できるようにしたらいいと思います。

○委員　昭和60年のわかとり国体のときに、鳥取ロータリークラブが「鳥取の歴史と文学の散歩コース」というパンフレットを作り、来鳥された方に配られたそうで、非常に喜ばれたそうです。

これだけの人がいろんな分野でいらっしゃるので、分野別に分けてはどうか。「童謡」、「写真」など、ジャンルを分けて、商品化できそうなものを作っていく。それぞれのご出身の地域の方が手をかけて、ガイドなどをしていく、ひとつの市民運動のような仕掛けをしたらどうか。代表的な「人」について地域の人が関わっていって、観光資源として作り込んでいったらどうか。吉田璋也さんの活動のように「我々自らがやらなくちゃいけない」と思います。

龍野市は三木露風の「赤とんぼ」で売り出している。赤とんぼ体育館、朝晩赤とんぼの放送。そこの石井市長と話したのは、「鳥取と龍野をわらべロードとしてつなげよう」ということです。

○委員　今残っている資料、その人たちを形で表すものを活用して、目で見て感じてもらう。立派な方でも何も残ってなければ見てもらえない。

鳥取市の人に限らなければ、菅楯彦さん（倉吉の人）。

吉田璋也さんと関係して、四宮守正さん。農業を元にした民芸ということで。

○委員　このリストを見ながら、よそから「人」を訪ねてこられたときには説明しにくいが、こちらが準備して、発信することはできると思いました。

国府町は何人出ているかと見たら5人しかいない。実際我々がガイドで話す先人はもっとたくさんおられます。見方が違うんだなあと思いました。

たとえば、私が町内を中心にガイドして回るときに、池田墓地を案内すれば、途中に骨董収集で有名な秋田政蔵の生家があります。それと岡田機外の句碑、顕彰碑があります。陸軍墓地に行けば、墓地を守って30年、道徳の副読本にも出ていた岡山よしのの生家のあとがあります。岡益の石堂に行けば長通寺の八百谷冷泉の襖絵を見てもらいます。石堂を研究した川上貞夫さんの話もします。安徳天皇御陵参考地の住職、牛尾得明。仁風閣の話になれば木村安造。万葉歌碑のところにいけば、前田牧蔵さんと岩田知事の尽力で建てられたと書いてある。糸谷古墳に連れて行けば、傘踊りを考えた山本徳治郎の碑があります。国庁跡に行けば、因幡三山の甑山で山中鹿介が立てこもって武田高信と戦った話をします。雨滝に行けば野村愛正の話をします。これらの人はこのリストに載っていないが、日常ガイドしています。寺で言えば「東の応挙寺、西の冷泉寺」、文学で言えば「東の愛正､西の機外」が通り言葉になっています。岡田美子も出ていません。藤井寺にも、墓地にも顕彰碑を建てました。

ナイチンゲール賞をとった山崎秀子も出ていますが、目に見えるものがないと案内ができないんです。だから、歌碑や顕彰碑、何かがあるとその場で説明できるし、みんなも興味を持って見てくれます。その辺が重要なところと思います。

○井上スタッフ　今までうかがった中で、少しまとめさせていただきます。

まず一つは、これまで有名な先人をいろんな形で紹介してきたが、うまく定着しなかったのは、「本を作っておしまい」だったからなのかなということ。本を作った後に、沖委員さんが言われたように、ガイドの説明に活用していけば、定着していくんじゃないか。

もう一つは「現物」ということ。音楽自体を聴く（その場で）、碑を見る。現物を見つつその人の歴史を知る、頭の学問だけではないようにしないと面白くない。このように複合的に捉えることで「人」を鳥取の観光資源にできるのでは、と感じました。

さらにもう一つの視点。「人」を紹介する際に、いろんな切り口があると思いますが、「地域別」と「分野別」、それぞれの切り口で、場面に応じてうまく集約し、使い分けていけばいいのでは。その集約の技法が重要になってきます。

また、今回は「鳥取の」ということで限ったのでたくさんの人が抜け落ちていると思いますが、鳥取の人でなくても、鳥取にものを残していれば、鳥取の人として活用すればいいと思います。

○委員　ふるさと音楽祭、ふるさと百景などいろんな取組みはありますし、菅楯彦さんと辻晋堂さんのトリエンナーレをやったりもしましたが、このような先人たちの偉業を、どう質的量的に普及させていくか。ローカルで有名な人をどうステップアップさせるか、今有名な人をどうもっと有名にするか。両方が必要だと思います。そうした中で、沖さんがやっておられるようなプロのガイドをもっと増やしていければ。

○委員　このたび「人」をテーマに考えたきっかけは、高知の坂本竜馬なんです。地元ではさほど尊敬されていなくて、県外で尊敬されていた。これではいけないということで、小学校5、6年に「竜馬副読本」を作って、全生徒に渡した。授業で1年間教えていくんです。「日本の竜馬が生まれたところに皆さんがいるんだよ」ということでずいぶん考え方が変わってきた。桂浜で525円で売ってます。

○委員　山中鹿介の話なんかは、よそでは言えますが、じげでは言えませんね。宇倍神社も含めて神社仏閣を全部焼き払った人ですから。

○委員　松下村塾に行ったときについ「松蔭」といったら、地元の人に「呼び捨てにしないでください」と言われて、ドキッとしました。土地の人が尊敬しているということですね。

○委員　今の子供たちは鳥取の民話を知らないということがありますね。「白うさぎって何？」と言われてびっくりしました。教育は大事だと思います。

○委員　「人」が観光だけではないのはそこなんですね。歴史や文化に踏み込んでいける。

○木村観光コンベンション推進課長　以前は民話を子供に語り継ぐ中で道徳観が受け継がれていったけど、今はそれがないという話がありますね。

○委員　子供に個室を作り始めてからだめになった。交流がないから親と子が話さない。

○井上スタッフ　行政としての考え方を文化、観光それぞれの課長からお願いします。

○木村観光コンベンション推進課長　ジャンルごとに分けて使うことが必要だと思います。吉田璋也さん、尾崎放哉さんは重要だと思います。八百谷冷泉さんの襖絵はこないだ見せていただいて、量・質ともすばらしいが、地元の人が見ていない。どこがでたくさんの人の目に触れるようにしないといけない。地元の画家の作品をじっくり見られる施設がほしい。新鳥取市にはたくさん施設があるので、どれかを活用して、保管・展示できれば、絵も生きてくるのではないか。

○委員　岡益は、志賀直哉、岡田よし子、川上貞夫の碑、御陵参考地など、いろんな話ができるところ。長通寺の磯江さんもユニークなガイドをしてくれます。

○委員　全国から人が来る会のときに冷泉さんのところをツアーに組み込んだんですが、「こんな田舎に何でこんなものが埋もれているんだ」と感動されていました。

○委員　後継者は。次につながる人がいないと。

○木村観光コンベンション推進課長　ひとたび火災があれば何もなくなってしまうというセキュリティの問題もある。

○委員　こないだ大失敗をした。岡田機外の子孫の方が来られて、生家と句碑を見てもらった。たくさんの句を残しておられるが、全然関係ない名古屋の博物館が記念館を建てるということで、句を全部出してしまったということです。残念で。コピーは持ってきてもらったけど、コピーではどうしようもないし。「地元でこれだけ思っていただけていたのなら考えましたのに」と言われました。

○委員　放っておくと資料がどんどん出て行ってしまう。尾崎放哉も小豆島が初めに作ってしまって、生誕地に何もないというのがおかしい。遅まきながら始まりましたが。

○中村文化芸術推進課長　こないだ作っていただいた基本方針の中にも、「先人たちの業績を積極的に顕彰したい」ということを載せています。先人の偉業を子供たちに知ってもらうことで、誇りを持ち、自尊心を持つことにつながると考えています。これだけたくさんおられるので、どう顕彰するか、今のご意見を伺いながら考えていきたいと思います。行政だけだと発想が貧しくなってしまうので。

○井上スタッフ　まとめというわけでなく個人的な意見として。昨年度観光の部署にいて勉強して分かったのが、ガイドの重要性。いくらいいものがあってもガイドしてもらわないと分からない。ガイドも一人だけではだめで、複数いないと観光客の対応ができない。沖委員のお父さんのガイドで池田墓地を見学したときに「これを全部ビデオで撮っておけばよかった」と思いました。それを見て勉強すれば、後継者を育てられる。コンピュータやビデオカメラのような身近なツールを使ってガイドの養成ができれば。

　もうひとつ、保存のこと。鳥取にその物の価値がわかる人、目利きがいなければ大事なものが保存されない。鳥取に残っている文化や伝統を大事だと思う人を増やせたらと思います。

○委員　ボランティアの養成は、教養講座の中にそういうのを設置して、実践的に養成していっ

たらよいのでは。目利きは難しいが、地元を誇りに思う人をふやすことは大事なことです。

観光の世界では、松江が先輩ですが、松江が成功したのは、①松江城が残ったこと（破壊される前に資産家が買い取った）、②小泉八雲という有名人の存在、③松平不昧公の文化称揚、の 3 つの大きな柱があること。

鳥取でもそのような柱を立てて推進していければ。ざっと考えても、①岡野貞一（歌と景色）、②吉田璋也（その活動）、③大国主命（古代ロマン）、④大伴家持（鳥取で万葉集編纂）ははずせない。

○委員　ガイドの存在は重要だと思います。ちょうど団塊の世代が引退する時期でもあり、行き場を無くした知力体力のある人に鳥取で活躍してもらえればよいのでは。

○委員　⑤尾崎放哉、⑥池田光仲もいれてほしい。

○委員　鳥取の人はよその人には松葉ガニが良いと思われるかもしれないが、とうふちくわとカレギがとても喜ばれるし、よそにないもの。食文化ももっと活用してほしい。

○委員　玉藤の麹漬けも。

○委員　因幡の白うさぎがローソンで全国のローソンで売られるようになった。これを機会に広くアピールしては。体験、収穫も欠かせない要素。民芸、和紙、七宝、千村の竹輪･･･。

○委員　市民啓発も欠かせない。市報、ホームページ、ぴょんぴょんネットを広く活用しては。

○井上スタッフ　ではまとめさせていただきます。

1　以下の人を柱として「観光」と「文化」を一体的に推進すること。

①　岡野貞一
②　吉田璋也
③　大国主命
④　大伴家持
⑤　尾崎放哉
⑥　池田光仲

2　観光ガイドを養成し、活用すること。

3　とうふちくわ、カレギなど、食文化を合わせて活用すること。

4　ものづくり体験や収穫を合わせて活用すること。

5　市報、ホームページ、ケーブルテレビなどで先人の偉業を啓発すること。